

## 畑雑草の幼植物 (4) タデ類

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

タデ科イヌタデ属 *Persicaria* に分類される植物のうち、耕地雑草となる一年生草種をまとめてタデ類と総称される。畑地雑草として代表的なものはオオイヌタデ *P. lapathifolia* とその変種サナエタデ *P. lapathifolia* var. *incana*、ハルタデ *P. maculosa* var. *pubescens* である。水田や転換畑にはヤナギタデ *P. hydropiper* が多い。イヌタデ *P. longisetata* は畦畔など耕地周辺に多いが、しばしば耕地内に侵入する。また、タニソバ *P. nepalensis* は北日本では畑地の主要雑草である。サナエタデ、ハルタデは早春期に発芽して初夏に開花・結実する。このため、ムギ類の収穫時に問題となるが、ハルタデの割合が高いようである。ダイズなど夏作物ではおもにオオイヌタデとハルタデが問題となる。ハルタデには晩生型(オオハルタデという)があり、その形態はオオイヌタデに酷似する。オオイヌタデ、ヤナギタデは初夏以降に発芽し、夏期以降に開花する。イヌタデの開花・結実盛期は秋期である。

タデ類の子葉はいずれも無毛で、先が円く、ややハの字型となる。ここに挙げた草種では、オオイヌタデ(写真-1)とその変種サナエタデ(写真-2)の子葉が細長い。次いで、ハルタデ(写真-3)、イヌタデ(写真-4)、ヤナギタデ(写真-5)、タニソバ(写真-6)の順に円くなる。オオイヌタデ、サナエタデの幼葉は両面に白い綿毛がある(写真-1, 2)。ハルタデの幼葉は縁に短毛が並ぶ(写真-3)。イヌタデの葉は前3種に比べて緑色が濃く、葉に光沢があ

る(写真-4)。ヤナギタデの本葉はややしわより、縁は波打つ(写真-5)。タニソバの子葉は変異が多く、写真ではだ円形だが、円形に近いものもあり、縁や主脈が赤みをおびることが多い(写真-6)。

オオイヌタデは幼植物期から葉の幅が狭く、葉の中央部に黒い斑があり、他のタデ類に比べて葉脈の側脈が明らかである(写真-7)。サナエタデもオオイヌタデによく似る(写真-8)が、早生で、草高数10cmで開花する。ハルタデの葉はやや幅広く、中央部に斑があるが、オオイヌタデほど目立たない(写真-9)。イヌタデの葉はつやがあり、前3種と異なり、茎は直立せず、横に広がる(写真-10)。ヤナギタデは転換畑など湿った立地に多く、本葉の先端が尖り、縁は波打つ(写真-11)。タニソバの葉身は三角形で、基部はひれ状となる(写真-12)。

オオイヌタデ(サナエタデ含む)とハルタデの草姿はよく似るため、托葉鞘の毛の有無が識別点になる。オオイヌタデ(写真-13左)は托葉鞘が無毛で、ハルタデ(写真-13右)は脈上、縁に短毛が並ぶ。

オオイヌタデは花序が長く、垂れる(写真-14)のに対し、ハルタデははじめ直立する(写真-15)。イヌタデの花穂は密で、淡紅色(写真-16)、ヤナギタデはまばらで白色(写真-17)。タニソバの花穂は球形に集まる(写真-18)。



写真-1 オオイヌタデの子葉と第1葉



写真-2 サナエタデの子葉と第1葉



写真-3 ハルタの子葉と第1葉



写真-4 イヌタデの子葉と第1葉



写真-5 ヤナギタデの子葉と第1葉



写真-6 タニソバの子葉と第1葉



写真-7 オオイヌタデの幼植物



写真-8 サナエタデの幼植物



写真-9 ハルタの幼植物



写真-10 イヌタデの幼植物



写真-11 ヤナギタデの幼植物



写真-12 タニソバの幼植物



写真-13 オオイヌタデ(左)とハルタデ(右)の托葉鞘

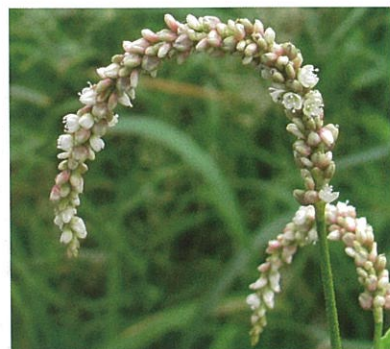


写真-14 オオイヌタデの花穂



写真-15 ハルタデの花穂



写真-16 イヌタデの花穂



写真-17 ヤナギタデの花穂



写真-18 タニソバの花穂